

社会保障改革が日本の財政健全化の本丸であることは間違いない。すでに、日本の公的な非社会保障分野への支出は、国内総生産(GDP)比で経済協力開発機構(OECD)諸国の中でも、もっとも低い水準である。教育も防衛も公共投資も、先進国で最低水準のところまで削減している。それでも社会保障費は毎年大変な勢いで増大している。日本の高齢化率は世界最高の水準を維持しながら、今後も高くなっていく。これから何十年、改革を続けなくてはならない。改革ができなければ、社会保障制度そのものが破綻することになってしまふ。財政破綻

伊藤元重の
ニュースな見方



戦略欠く社会保障改革

あるとき、すべての戦線の人員を削っていくのでは勝利はない。重点分野を見極め、そこには十分な資源を投じると同時に、そのため資源投入を削減する分野

メリハリある戦術多彩に

戦術人員や武器の資源に限界がある。戦術人員や武器の資源に限界がある。戦術人員や武器の資源に限界がある。戦術人員や武器の資源に限界がある。

できるのかという点に集中しているように見える。いま、テーブルの上に乗っている改革案をすべて実行すれば、日本の医療が50年盤石となるとは、とても言えない。すぐに導入すべき短期の改革に加え、中長期で導入を検討すべき改革

短期と中長期の両面で戦術を策定していくことが重要だ。行き当たりばったりの戦術的対応では、大きな戦いに勝つことは難しい。残念ながら、日本の社会保障改革に大きな戦略があつたとは思われない。戦略について具体的に考えるために、医療にだけ問題を限定してみよう。いま、医療改革の案がいろいろ出てくる。しかし、その改革の多くは当面どのような改革が

*この記事は日本経済新聞社の許諾を得て転載しています。